

翻訳教育法・研究ノート

柴 田 耕太郎
Shibata Kotaro

1, 翻訳と大学教育

コミュニケーション・イングリッシュの声かまびすしい今、英文読解力が衰えているのを感じる。担当する「翻訳」の授業で、自由応募の訳文提出数が10年前の7人平均から3人平均に、同じ基準で付けているAA、Aが平均4.5人から2、5人に減っている（受講生平均25名）。「ゆとり教育」と「しゃべれる英語」へのシフトのせいかもしれない。

2011年現在、あるレポートによれば大学550校中183校が翻訳関連の講座を持ち、その数延べ756という。だが翻訳を教えるに足る要件（翻訳実務経験、然るべき訳書実績）を備えた教員は少ない。正確に数えたわけではないが、ざっと2割ぐらいか。翻訳が社会的に認知され、学生の関心も高まっているので、とりあえず講座をつくっている気がする。翻訳関連教員需要を見越し、実績作りなのか「翻訳を目的としない学生に翻訳を教える意義」などと寝ぼけたタイトルで学会発表する輩も出る始末。

翻訳は文法力、論理力、教養力、表現力の精華である。正しく読んだ上で、文体をどう磨くかの問題なのである。文体は個人に依拠する部分が多く、簡単に教えられるものでない。「商品として通用する訳文」を理想として、その前の「正しく読む」に的を絞るのが、学校教育としての翻訳であろう。

2, 翻訳の基礎知識

的を知らねば、射ることはできない。
学生にざっと教えておいてほしい項目を掲げる。

(1) 翻訳業界概観

① 翻訳理論を概括する

純粹理論、翻訳史、比較文学

② 分野と市場を認識させる

産業翻訳、出版翻訳、映像翻訳、舞台翻訳

③ 翻訳の現場を垣間見させる

翻訳工程管理、翻訳の経済

(2) 翻訳の基準

訳文を作成する上での、基準を示す。

「翻訳は自由」であるが、勝手にやってよいというものではない。次は、翻訳業界40年、翻訳一本でビルを建て、産業・出版・映像・舞台各分野での翻訳者としての実績を有し、出版翻訳者を40人以上育てた論者の経験則であり、まず異論はあるまい。

①5つの力

and, カンマ, 記号, 掛かり方, 日英語の誤差

*これは紀要前々号にて記述した。

②公理と定理

公理：翻訳は商品である

定理：正確で読み易いのがよい翻訳である

一文を短くする, 掛かり方をハッキリさせる, 読点は多用しない, リズムある文章にする, 不用意に接続詞・接続助詞を使わない, 語義は正確に使う, 同じ言葉は続けない

視点：原著者が日本人だったらどう書くか

*これらは別掲する小著を読めばよくわかる。

3, 翻訳の周辺訓練

翻訳実践に入る前に、いわば「翻訳体力」をつける基礎訓練を施したい。

(1) 音読

[何故音読か]

音読してつかえる箇所は誤訳, 抑揚が乱れる箇所は悪訳, との業界通説もある。

国語教科書の音読は小学校3年で終わるが, 実はそれ以降も, 頭の中では音を出して読んでいるのである。頭と耳に心地よい訳文であってこそ, 受け入れられるのだ。

[教材の選定]

霜雪に耐えた名文をと言いたい, が, 楽しく読まなければ効果も少ない。学生の興味をそそる一定レベルの作品であれば, どれでもよからう。

[指導のポイント]

うまく読まなくてもよい。言葉はリズムが大切なこと, ジャンルによりそのリズムも変わることを体得させる。

実例Ⅰ 小説「オリンポスの果実」田中英光

著者および作品解説：

田中英光は大学生時代にロサンゼルス・オリンピックに出場。この作品はその際の女子選手に対する片思いを淡々と綴った青春・スポーツ小説。太宰治に師事した田中だが, 太宰の死にショックを受け, その命日に墓前にて自殺した。

読ませ方の注意：

本文のあとに、「貴方は僕のことが好きだったのでしょうか」の一文があって、小説は終わる。その一句が言いたいために書かれたと思える小説である。ナレーションのように淡々と読むよう指導したあと、決めの一言があるのを明かす。こんどはその一文を、受講生一人ひとりに感情込めて台詞として喋らせる。どう表現するかで主人公（語り手）の性格を自分がどう捉えているか、受講生は気づくはずである。翻訳も同じく、登場人物の性格設定なしには説得力が削がれることを教える。

本文：

秋子さん、横浜沖で歓迎船が見えだしてから、僕は慌てて、あなたの写真を内田さんと一緒に撮らせて貰いました。あなたの衣装も顔も皴くちやにレンズのなかにボヤけて写っていました。

あなたの顔は、往きの船の健康さにひきかえ憂いの影で深く曇っていました。今にして思うと、当時ぼくは、それを僕への愛情のためかと手前勝手に解釈していたようでした。帰朝して三日目でしたか、高知県主催の歓迎会が、丸の内の中央会館でありました。僕は、あなたも同じ高知県なので、勿論、お逢い出来ると思い慌てて道を歩き、交通巡査に叱られた程の興奮の仕方でした。

しかし、面やつれしたあなたにお逢いしても矢張りなんにも話せませんでした。

只、エレベーターを一緒に箱で、身体を触れ合って降りたときと、挨拶に壇上に登る際降りて来たあなたと擦れちがったときが限りなく芳しかったことを、今でも忘れられないでいます。

秋子さん、僕はあなたへの愛情に肉体を考えたことがないと前に書きました。

帰朝してから、随分、色んな歓迎会も催して頂き、酔ったあとなど、友達同志、女遊びをする機会も多かったのですが、僕は、どんな場合でも芸者なり、商売女に「僕にはだいいじな女がいるから、悪いけど気にしないで」とまともな顔で断わって、指一本彼女達に触れたことはありませんでした。

所詮、だらしない僕が、こんなに女色が嫌いだったというのは偏えにあなたからの手紙の返事を待っていたからです。

県人会でお会いした日、僕は横浜に着く日に撮ったあなたの写真を、すぐあなたの寄宿舍の方へ送っておきました。勿論、あなたの御迷惑を考え、あっさりした手紙を添えておいたのですが、それには、きっとあなたの返事が来るだろうと信じていました。返事が来れば、それからお付き合いして、或は結婚出来るかと思っていたのです。

僕はその夏、鎌倉の家に行っていました。

毎日夕暮れになると、あなたからの手紙が回送されているような気がして姉の子をおぶって散歩に出る浜辺から、祈るような気持ちで姉の家に帰って行ったものでした。

相模湾の海の夕焼け空も、太平洋の夕映とかわりはありません。しかし到頭、あなたの手紙は来ませんでした。

実例Ⅱ 詩歌「閑雅な食慾」萩原朔太郎

著者および作品解説：

萩原朔太郎は抒情詩分野にすぐれ「日本近代詩の父」と称せられる。1886生、1942没。

本作品は「純情小曲集」所載。人口に膾炙した「フランスに行きたしと思えどフランスは余りに遠し

せめて新しき背広をきてきまなる旅にいでてみん」と同じ、大正ロマンのハイカラさと明るさが感じられる小品。

読ませ方の注意：

「羞」は「ち」より「はじらい」と訓読みのほうがよいだろう。

「ふほふく」は「法服」では意味が続かない。「フーク」と読むべきだろう。

「珈琲店」は「カフェ」と送り仮名がある。

ゆったりとした、明るい感じで、のびのびと朗読してほしい。

本文：

松林の中を歩いて

あかるい気分の珈琲店を見た。

遠く市街を離れたところで

だれも訪れてくるひとさえなく

林間のかくされた追憶の夢の中の珈琲店である。

をとめは恋恋の羞をふくんで

あけぼののように爽快な別製の皿を運んでくる仕組

私はゆったりとふほふくを取って

おむれつ ふらいの類を喰べた

空には白い雲が浮んで

たいそう閑雅な食慾である。

実例Ⅲ 台詞「金色夜叉」尾崎紅葉

著書および作品解説：

1868-1903. 人気作家として、文学結社「硯友会」を主宰。97年長編『金色夜叉』を書き始める。金に眼がくらんだと恋人宮をのしる学生寛一の「来年の今月今夜…」の名台詞で知られる。

読ませ方の注意：

英語は台詞だけでは性別・年齢・階級などが分かりにくく、... said he. などと話者の特定化をする。そのため、邦訳でも「…と彼は言った」式のただらとした説明が続くことが多い。訳す場合、「…と言った」を続けない工夫をする、場合により... said は訳さずともよいことを、日本語の会話例から納得させる。

本文でも、どんな人物の発言かおおよそ見当がつくはず。それを自分なりに設定させ、台詞を読ませる。そのうえで、どうしてそう考えるのか受講生に説明させ、適否を評価する。

適当な人物設定の一例を発話順に示す。

「若い男」「中年の男」「若い女」「老人の男」「中年の女」「若い女」「若い男」「老人の女」「中年の女」「若い女」「中年の男」

本文：

(パーティー会場でダイヤモンドが披露される場面)

「ダイヤモンド！」

「うむ、ダイヤモンドだ」

「ダイヤモンド??」

「成程ダイヤモンド!」

「まあ、ダイヤモンドよ」

「あれがダイヤモンド?」

「見給え、ダイヤモンド」

「あらまあダイヤモンド??」

「可感いダイヤモンド」

「可恐い光るのね、ダイヤモンド」

「三百円のダイヤモンド」

* 「可感い」は「すばらしい」と読む。「可恐い」は「おそろしい」と読む。

実例Ⅳ 漢詩「春望」杜甫

著者および作品解説：

盛唐の大詩人，712生，770没。

安祿山の乱により世の中が乱れるさまを，五言絶句にまとめた。

高校の教科書で誰もが習う名句。

読ませ方の注意：

日本語文は和文系と漢文系がある。翻訳の場合も，どちらのスタイルで書くかは重大な問題。書き出しの一文により，以後の文体が規定されてしまう。和文のほうが分かりやすく丁寧な感じだが，ときとして細かい解釈を出す必要に迫られたり，くどくなったりする。漢文だと，締まった気はするが，意味がとりにくいこともある。

本文は朗々と読んでもらいたい。

本文：

国破れて山河あり

城春にして草木深し

時に感じては花にも涙を注ぎ

別れを怨みては鳥にも心を驚かす

烽火三月に連なり家書万金に当る

白頭搔けばさらに短く

全て真に耐えざらんと欲す

(2) 反訳

[目的]

名作の英語版を日本語に訳し直してみることで，翻訳は完全にイコールにはなりえないこと，正確に読み解いたうえで思い切りが必要なことを知る。

[訳し方の注意]

原文との比較が出来なくては困る。付かず離れず、の訳文を指導する。

実例 “KUSAMAKURA” 夏目漱石

著者および作品解説：

誰もが少年少女期に読んだはずの名文。漱石については今更解説の必要もあるまい。

英訳文：Meredith McKinney 訳

As I climb the mountain path, I ponder —

If you work by reason, you grow rough-edged; if you choose to dip your oar into sentiment's stream, it will sweep you away. Demanding your own way only serves to constrain you. However you look at it, the human world is not an easy place to live.

And when its difficulties intensify, you find yourself longing to leave that world and dwell in some easier one — and then, when you understand at last that difficulties will dog you wherever you may live, this is when poetry and art are born.

The creators of our human world are neither gods nor demons but simply people, those ordinary folk who happen to live right there next door. You may feel the human realm is a difficult place, but there is surely no better world to live in. You will find another only by going to the nonhuman; and the nonhuman realm would surely be a far more difficult place to inhabit than the human.

So if this best of worlds proves a hard one for you, you must simply do your best to settle in and relax as you can, and make this short life of ours, if only briefly, an easier place in which to make your home. Herein lies the poet's true calling, the artist's vocation. We owe our humble gratitude to all practitioners of the arts, for they mellow the harshness of our human world and enrich the human heart.

反訳例：論者によるもの

山の細道を辿りながら、こう考えた—

理性を頼りに物事を推し進めると、とげとげしくなる。權を感情の流れに突っ込もうとすれば、押し流される。自分なりの道を貫こうとすれば、それに縛られる。どう見ても、この人間世界は住みにくい。

住みにくさが高まると、この世間を脱しどこか別の気楽な世に移り住みたくなる。だが、どこに越そうと面倒くささが付き纏うと分かったとき、まさに詩と芸術が生まれる。

この人の世を作ったのは神でも鬼でもなく、偶々近くに互いに住みなすふつうの人間である。人の国が厄介な場所だと感じたとして、他に住むべきよき世界がある訳でもない。人間以外の処へ行くことでしか別の世界は見つかるまい。そうして人間以外の国はまずこの人間界以上に住むに難き場所だろう。

それで、この選びようのない世界が自分にとって住みにくいというなら、まずもってできるだけ寛げるよう最大限努力し、この短き人生を、瞬時であれ、住みやすいものにせねばならない。ここに詩人が持つ真の天職があり、画家の真骨頂がある。芸術の人士にはささやかな感謝の念を捧げるのが常だが、それはこの人間世界の厳しさを和らげ、人間の心を豊かにしてくれるからだ。

原文：

山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、画が出来る。

人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。矢張り向う三軒両隣りにちらちらする唯の人である。唯の人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりも猶住みにくからう

超す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容で、束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職が出来て、ここに画家という使命が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊い

(3) 辞書の引き方

[辞書引きの意義]

電子辞書の活用により、容易に正確な訳文に辿り着ける。

* 以下セイコー電子製のG10を使用

[引き方のコツ]

・語源をたどる

英語は多義である。元となる意味を知れば、分れる意味を覚えるのも、訳語を選定するのも楽になる。

単語例：maintain

①保つ ②養う ③主張する ④支持する ⑤保存する ⑥守る

ざっと辞書を引いただけで、いくつもの意味が出てくる。

そこで、内蔵された辞書ジーニアス英和の先頭にある語源の欄を見る。

[初14c；ラテン語 manu tenere（手の中に所有する）]

main-(手) + tain（所有する，保つ）。

「手に持つ」から、主たる意味の①保つ、これから派生して②から⑥が生まれたと考えれば、納得がゆくではないか。

例文：

Unlike the spider, which stops at web weaving, the human child — and, I maintain, only the human child — has the potential to take its own representations as objects of cognitive attention.

巣を張って終ってしまう蜘蛛とは異なり、人間の子供は（そして人間の子供だけがと私は言いたいが）自己が表現したものを認識の対象として客観化する潜在能力を持っている。

このmaintainは、主文で述べる事実に加え「（手から比喩的に）自己が頭のなかに保っている考え」を、挿入・強調している。それで③「主張する」の語義を選択することとなる。

あとは翻訳としての訳語選択の問題。「主張する」は直訳的でおかしいので「言いたい」にしよう、

と頭が働くのである。

・文型

単語例：presume

例文：I will not presume to say how far this irresistible power of assimilation extends.

①(確信をもって)推定する ②あえて…する, の2義あり, どちらでも訳はおかしくなさそうだが…
(a)「この抗しがたい同化の力がどこまで及ぶものか推定して言うつもりはない」(b)「この抗しがたい同化の力がどこまで及ぶものか言おうとは思わない」。辞書の訳語欄を丁寧に見てゆくと, ①にはS presume O/ thatの形が必要なのが分かる。ここはpresume to doなので②をとる。これを支持する適切な文例も出ている: presume to speak for another (あえて他人の代弁をする)

単語例：win

例文：... the French taste for frog's legs has won for that nation the less than flattering sobriquet of “frogs” among non-frog-eating Anglo-American.

技術者として世界を飛び回り, 英検1級, TOEIC960点, 通訳案内士免許と所謂「資格三冠王」の方が私の受講生にいる。

その人がどうして試訳のようになるのか分からないので教えてくれと, 持ってきた。

誤訳指摘の先駆的な仕事をした, 別宮貞徳の著書からの引用だ。

別宮が指摘する誤訳:

フランス人が蛙の足を食するようになったのは, 蛙を食べないアングロサクソン人が, お世辞のつもりで, 「蛙」というあだ名で呼ぶようになってからのことである。

別宮による試訳:

フランス人は蛙の足が好きなので, 蛙を食べない英国系アメリカ人から「蛙」という, およそありがたいあだ名を奉られることになった。

私の解説:

構文分析してみる。

<u>the French taste for frog's legs</u>	<u>has won</u>	<u>for that nation</u>	<u>the less than flattering</u>
S	V	O1	O2

sobriquet of “frog” among non-frog-eating Anglo-American.

ジーニアスを引けば,

3 b [S] [SVO1O2 / SVO2 for O1] <物・事が>O1<人>にO2<名声・賞賛など>を得させる

文例: His courage won him fame [fame for him] 剛胆であったので彼は有名になった。

つまりこの won > win は「O1にO2を得させる」の形。
O2が長いので、O1の後ろに回ったのだ。

もうひとつ、the less than が分かりにくいだろう。

これもジーニアスを引けばよい。

less をまず引いて、それからさらに「成句」をクリックする。

less than ... (2) [通例形容詞を修飾して] 決して [ちっとも] …でない (not at all)

文例：I was less than satisfied with the results.

結果にちっとも満足しなかった。

リーダーズの文例では、

She is less than pleased.

彼女はちっとも喜んでいない。

that nation はフランス人のこと

the は of を同格 (…という) の意味に制限している。

flattering は、お世辞での、うれしがらせる、の意。

sobriquet は、あだ名

辞書を丁寧に引けば大抵の疑問は解決するのが分かるだろう。

・状態動詞と動的動詞

単語例：consider

例文：He considered his wife's likes and dislikes somewhat silly.

彼は妻の好き嫌いをいくらか馬鹿げていると思っていた。

上記の訳で正しいが、consider を「思った」としてはダメかという疑問が湧くだろう。

ジーニアス英和の各訳語欄の先頭には D (dynamic, 動的動詞), S (static, 状態動詞) の区別がある。

さらに見てゆくと、consider は SVO で D, SVOC で S であるのが分かる。ここは SVOC なので S「思っていた」ととる。D ととる文例も出ている：consider a plan before carrying it out (SVO, 実行前によく考える)。

・自動詞と他動詞

単語例：climb

例文：I climb up the Matterhorn.

I climb the Matterhorn. とはどう違うのかという疑問がわく。

丹念に辞書を引くと、自動詞の 1 の文例に climb up the Matterhorn マッターホルンに登る《必ずしも頂上

まで登ることを意味しない；他動詞用法climb the Matterhornでは「頂上まで登る」を意味する》とある。

なお辞書には書いていないが、日本語に訳すと同じ表現になる自動詞用法と他動詞用法の違いは、おおまかに他動詞は直接的、自動詞は間接的、と覚えておくといよい。

例：call him（彼には呼ばれるのが分かった）

call to him（彼に聞こえたかどうかは不明）

I helped an old man to cross the street.（脇で注意などして危険なく渡れるようにした） I helped an old man cross the street.（荷物を持つなどして渡れるよう手伝った）

・条件検索

単語例：not

例文：I shouldn't be surprised if he isn't a titled person, Sir Harry Goldsworthy or something like that.

母子が雨に濡れる中、品の良い老人にたった1ポンドで絹の傘を譲ってもらった後、母が娘に言う言葉。普通に訳すと文意がおかしく感じられるが…「あの人がゴールズワージ卿とか何とかなでなくたって驚かないわ」。

そこでshouldn't & if notで条件検索する。

I wouldn't [shouldn't] be surprised if she didn't get married soon.

彼女がまもなく結婚しても驚かないよ、彼女はきっとまもなく結婚するよ。

これはフランス語の影響で、いわば虚字のnot（語調の関係で入っただけで、否定の意味はない）とでも言うべきもの。

単語例：game

例文：‘So that's his little game!’ my mother said.

短編小説の名手と言われるロアルド・ダールの「アンブレラマン」の最後のところ。

傘を盗んで、それを1ポンドと交換し、酒代に充てるのを常習としている老人に呆れて、現場を見ていた母子の母親のほうと言う台詞。little gameとは何だろう？

gameは①（ルールのある）遊び ②（チームでする）競技 ③計略 ④（u）獲物 ⑤（やばい）職業、と多義。誰もが選択に迷わず、そこで電子辞書でlittle & gameと入れる。

None of your little games! その手には乗らないぞ。

I was a wake-up to his little game. 私は彼のたくらみに気付いていた。

So that's your little game! そうかそれがきみの魂胆なのか。

his little game 彼の子供じみた策略

等、③と取ってよい例があふれている。

・日本語シソーラス

単語例：funny：

例文：I'm going to tell you about a funny thing that happened to my mother and me yesterday evening.

12歳の女の子の作文。昨日、品のよい老人に出会ったが、じつは酒代稼ぎの傘泥棒だったという話し。funnyの主な意味は①奇妙（理解しにくい）②こっけい（笑いをさそう）③怪しい（疑念を抱かせる），だが何か訳しにくい。

この文のfunnyには全部の意味が含まれていそう。辞書の三つの語義のうち、どれか一つを充ててお茶を濁すのは避けたい気がするが…。

こうした場合は日本語シソーラスに頼るのがよい。

「奇妙」を引くと、「不思議」を参照せよとある。100近くある類義語から、「疑わしい」を選ぶと、そこにまた100ばかりの類義語が出てくる。その中からまた選ぶ「嘘のような」「おかしい」「一寸気になる」「訝しい」。これらを合わせて原文とズレの無い言葉を、今度は自分で考える。「変な」が合いそう。だがそれだけでは強いし、リズムがでない。子供の言葉でもある。そこで副詞をつけたし、全体a funny thingは「ちょっとヘンな出来事」ぐらいでどうか、と思い巡らすのが翻訳の楽しみの一つである。検索の流れ：奇妙⇒不思議⇒疑わしい⇒嘘のよう、おかしい、一寸気になる、訝しい⇒変な、ヘンな⇒ちょっとヘンな

・英英辞典

単語例：impressive

文例：Among the guests was an impressive array of authors and critics.

直訳すると「客の中には印象的なずらりと並んだ作家と批評家がいた」だがimpressiveはこれで良いのだろうか。

そこでOEDを引く。

evoking admiration through size, quality, or skill; grand, imposing, or awesome

日本語の「印象的」はよいことにも悪い事にも使うので、曖昧だったり、緩めだったりする。英語に沿った「堂々として、威圧する、人の賞賛を招く」という意味合いの日本語を一語で考える。結果「客の中にはきら星のように並ぶ作家や評論家がいた」。

(4) エラー・アナリシス

[目的]

英語プロでも見逃してしまう誤訳を日本語訳文から見つける。

自分の翻訳の際の他山の石とする。

[実例]

耽美主義の作家、オスカー・ワイルドの短編小説The Selfish Giant。訳文は新潮文庫「わがままな巨人」、訳者は大学英文科教授（故人）。

市販の訳文例：

ある日、大男が帰ってきました。友達のコーンウォールの人食い鬼を訪ねにいて、七年間もいっしょにいたのです。七年たつと、大男は話すべきことはみんな話してしまいました、話題にも限りがあったからです、それで自分の邸に帰ろうと決心しました。

原文：

One day the Giant came back. He had been to visit his friend the Cornish ogre, and had stayed with him for seven years. After the seven years were over he had said all that he had to say, for his conversation was limited, and he determined to return to his own castle.

着眼点：

普通に読んでおかしい箇所を見つける。

「話題にも限りがあったからです」こんな当たり前のことをワイルドともあろうものがわざわざ書くだろうか。そこで電子辞書で調べる。

his conversationが曲者。

「話題」を和英大辞典でひくと、topic of conversationとあり、his conversationの訳として相応しくなさそう。conversationを内蔵辞書全部を丁寧に引いてゆくとランダムハウスにありました「社交的な話術(の才)」。例：be good at Englishは「英語を喋るのがうまい」be good at conversationは「会話術・会話の駆け引きがうまい」。なるほどこれならhisと共起しやすい。

さらに検索を進める。limitedは形容詞化した過去分詞「あまり才能がない・乏しい」例：He is limited in ability.彼は能力が乏しい。His conversation is limited = He is limited in conversation.

forは因果関係のある直接的理由でなく、判断の根拠を示す附随的理由を示す。

つまり巨人は「話べた」なのだ。

このあたりの直訳「七年経ったあとでは、大男は話さねばならないことを全て言い終わっていました。何でそんなことを言うか」というと、彼の会話能力は乏しかったからです」

修正訳「七年たって、大男は話すべきことをやっと話し終えました。なにしろ話下手だったのです」

(5) 文法力をつける

【教材の選定】

硬質の英文を読む訓練が出来ていない最近の学生。難文、悪文をへばりつくように読み解くことによって、どんな英文でもすらすらと読める力がつくのである。

通算100万部以上のロングセラー『英文解釈教室・改訂版』* (伊藤和夫, 研究社)。「難関大学受験生が皆買うが、誰も最後まで読み通せない参考書」として有名。この本を1時限に一課ずつ、都合半年で15課を読み通す。文法力が抜群に上がることを請け合い。

* 2017年に新装版が出た

例えばSVOCの説明にこうある。

SVOC

- (1) OがCであると, Sが考える [知る] I thought him honest.
 (2) OがCである状態を, Sが生じさせる The cat licked the saucer clean.

実に簡潔にして明瞭ではないか.

だが実はこのSVOCには3タイプある. その補足説明は教員が解説してやれば, より学生の理解が進むだろう.

- (1) はSVOC, (2) はSVO・OC,

さらに (3) SV・OCがある 例: She ran her shoelace undone.

(6) 調査力をつける

[調査の必要性]

「私はロマンス小説しか興味ないから, 調べるようなことは必要ない」などとうそぶいても, では主人公の恋人が優秀な外科医で, その仕事の詳細を主人公に語る場面があったらどうだろう. 当然専門用語がバンバン出てくるはずだ.

どこでどんな分野の言葉が出てくるか知れないのが翻訳. それにいついかなる時でも対応できるように, 調べ方のコツとカンを養っておくことが必要だ.

[教養とネットワーク]

日頃からアンテナを張ってさまざまなものに興味を示しておく. 今はネットが充実しているので, 調査も随分と楽になった. とはいえ, タダの情報は信頼性に乏しいことがあるので吟味が大切. また一人の人間の得られる知識には限界がある. 怪しいなと思ったら, すぐ問合せのできる友人を多数持つておくこと. 専門知識は一朝一夕でできるものではない.

[実例]

The people (= Egyptians) lived on the banks of the Nile and the small strip of fertile country on either side.

人々はナイル川の川沿いの地と, 両岸に狭く細長く続く肥沃な地方に住んだ.

上記の訳文は参考書の訳例だが, どこか曖昧だ.

「川沿いの地」「両側に狭く細長く続く肥沃な地方」ってどこだろう.

bank ①土手 ②河岸 ③ (-s) 川の両岸 ④川と堤の斜面, と多義.

そこでエジプト史を紐解くと, banksとは「ナイル河谷」のことなの分かる.

the small strip of fertile countryはどう調べても分からない. そこで知り合いのイスラム史の専門家に聞いた. 「ナイル川は下流では氾濫を繰り返す. 耕作地はリスク分担の生活の知恵で, 川と直角に細く短冊状に区分けし, 所有する. それで水汲みの苦勞と, 氾濫時のリスクが平等になる」とのこと. これはさすが聞かねば分からない. 持つべきものは友なのである.

修正訳「人々はナイル河谷沿いに, そして平野部では土地を川と直角に短冊状に区切って暮らした」

注：収穫量は平野部1/3，河谷部2/3（平凡社百科事典）

（7）論理力をつける

〔客観的に説明する力が必要〕

高級な英文は論理が支配している。その論理を読み取るために、日本語でも日頃から論理力の訓練が必要だ。

〔条件を与え人に説得できる文章をつくる〕

学生に課題を与え、形式は自由でその回答をレポートするよう指示する。

これは翻訳に必要な文章力の訓練も兼ねることになろう。

例えばこんなもの。

「昨今の話せることにシフトした大学での英語教育，その功罪を述べよ」

次の例では戯曲仕立てで，正確に読むことの大切さと翻訳における日英語誤差を取り上げた。全12場から成る自作作品中の1場である。

創作例 聞入『ゲティズバーグ演説』

場面：皆協大学教授，都山教授の個人研究室。黒板，机と椅子，パイプ補助椅子。英語の本と辞書が数冊。

人物：都山教授，予備校講師加藤

（都山，部屋に入って明かりを点ける。誰かいるのに気づく）

都山：

誰や？

加藤：

怪しい者じゃありません。

都山：

怪しくないもんが何で人の部屋へ勝手に入るんや。

加藤：

すみません，カギ掛かってなかったんで。加藤といいます。先生に恥かかされたので，その雪辱に来ました。「リンカーンのゲティズバーグ演説」ご存知でしょう。

都山：

ああ，思い出した。ネット見てたら，予備校のモデル授業ゆうておかしなところがあったんで，授業で学生に真似したらいかんよと教えたあれか。何なら黒板に書いて，もう一度やってみてや。

加藤：

では，やります。

（黒板に板書。the government of the people by the people for the people）

これは有名な「人民の人民による人民のための政治」by リンカーン、って奴だ。けどどな君たち、「人民の」っておかしいか。意味がはっきりしないだろ。ここ正しく言うと、ofは目的格、by以下が主格。そうするとThe people govern the people for the people.と読めるよな。「人民が人民のために人民を治める」というのが正しい訳だ。

都山：

解釈はそれでええよ。でもな加藤君だっけ、何で前置詞句にカンマ入っとらんのや。これじゃ並列にならへん。「{ (人民のための) 人民による } 人民」との掛かり方になってしまうよ。

加藤：

いやそれはちょっと忘れて…

都山：

言い訳でけへん、全然意味が違ってしまうがな。忘れたと大目に見たとしてもや、頭のtheは何や。引用は、正確にせな笑われるで。リンカーンの演説はgovernmentであってthe governmentにはなっとらん。

加藤：

そんな難癖…

都山：

難癖や全然あらへん。governmentは「政治」、それにtheがついて「政府」。つまりtheがつくことによって、抽象的なものが具体的にイメージできるものになるのや。「不可算名詞の可算名詞化」ゆうてな。君も予備校のセンセやったら、もう少し英語丁寧をやったらどや。教わる学生が可哀そうやで。

加藤：

僕はこれでも日進プレパラトリー・スクールの人気講師です。

都山：

僕もな、昔専任になる前、アルバイトで予備校講師やったことある。人気あってな、200人の教室に立ち見が出たほどや。一文一文を細かう細かう腑分けして、一点の曇りなく読み解くのが、昔から変わらない僕のやりかたや。皆んなようついて来てくれた、大教室シーンとして。一度、笑いをとろうと思うて、掛かり方が二つにとれる例文を出したんや（板書する）。She didn't marry him because she loved him. 「彼女は彼を好きだったから彼と結婚したわけではない」人生にはな、これはよくあるこっちゃ。didn'tはmarry以下全体に掛かる。もうひとつは「彼女は彼が好きだったから彼と結婚しなかった」—（燥いで）そりゃ賢明やね！…駄目だった。本当に好きな相手と結婚したら後が大変や、テンション維持できへん、という意味で言ったんやけど。この場合、didn'tが掛かるのはhimまでや。みんな、真面目に聞きすぎて、冗談通じなかったんやね。

それから、自分のが正しい訳だ、なんてしたり顔するには、君はまだ十年早いで。ここは次の三つの解釈があるゆうのが定説や。その一。人民は弱いものだ、怠惰なものだ。放っておけばどうしようもなくなる。そこで誰かが人民を治めなければならない。だがそれは神でも、権力者でもなく、まさにその人民の代表によって治められなければならない。これは言語学者ナイダの説。その二。「人民の政治」ではあいまい。そこでカンマを置き、言換える、「それすなわち人民による、人民のための政治」。その三。リズムを重視し、ゴロ良く三つの前置詞句を並べた。深く意味を詮索するには及ばない。お分かりかい、加藤センセ。

(加藤、自分の至らなさに蒼ざめると同時に、都山のちょっとした言葉に刺激され、その怒りが都山に向かいそうな様子)

それともうひとつ、あんたの言うようにや、「人民が人民を人民のために治めること」としたら、ひとの口に気軽にのぼる名言になったかいな。それでも正確さが大事だ、言うなら、peopleの訳語は「人民」でええんか。アメリカと人民はなじまん。かといって「国民」では堅苦しいし、「民衆」「大衆」「公衆」では軽薄になってしまうやろ。「大衆の大衆による大衆のための」ときたら「居酒屋」,「公衆の公衆による公衆のための」—便所か!？.

そんなこんなで「人民の人民による人民のための政治」はベストとはいえずとも、翻訳としては充分受け入れ可能なものなんよ。君もしっかり勉強して僕を見返すぐらいの力つけたらどや。喋る英語にシフトした影響が教師にまで出とるんかいな。学生相手にしたり顔しとる時か、詰らんことで逆恨みするんやないで! (加藤、この言葉に切れる。近くにあった鉄パイプの補助椅子をつかみ、都山に襲い掛かる) やめろ、危ない。ワアッー (暗転。以下別の機会に…)

(8) 改訳

[方法]

正しい直訳をし、市販の訳文と対照し、さらに商品となる訳文をつくる。

[指導ポイント]

試験で採点しやすいいわば人工日本語の英文和訳と、商品として読者に日本文だけで完結して読んでもらえる翻訳との違いを熟知させる。

市販訳を批判的に読み、良い所を取り入れ、悪いところは他山の石とするよう指導する。

日本語のコロケーション、文の力点、簡潔さへの配慮が必要だ。

実例Ⅰ

a) は直訳, b) は市販訳, c) は改訳例

Again it came — a throatless, inhuman shriek, sharp and short, very clear and cold.

a) 再びやってきた—喉のない、人間的でない悲鳴が、鋭くて短く、とても澄んで冷たく。

b) すると、また聞こえた一声ともつかない非人間的な悲鳴だった。鋭く、短く、澄みきった冷ややかな悲鳴。

c) また聞こえた。喉を絞ったような奇怪な叫びが、瞬時鋭く、寒々しく澄んで。

* c) は文の凝縮、原文に準じる文末焦点、韻の復元 (s, sをサ行に) を工夫している

実例Ⅱ：

'OH JESUS, THIS IS wonderful,' said the Stag.

He was lying back in the bath with a Scotch and soda in one hand and a cigarette in the other. The water was right up to the brim and he was keeping it warm by turning the tap with his toes.

a) 「おいくそっ、こいつはすばらしい」とスタッグが言った。

彼はスコッチのソーダ割りを片手に、もう片手に煙草を持って、風呂に横たわっていた。

お湯はすっかり縁まで来ていて、彼はその湯を自分のつま先で蛇口を回すことで、温かく保っていた。

b) 「うーん、いい気持だ」と、スタッグがいった。

彼は片手にスコッチ・アンド・ソーダ、もう一方の手に煙草を持って、浴槽にふんぞりかえっていた。お湯は縁まで溢れ、彼は足の指で蛇口をまわしてお湯がぬるくならないようにしていた。

彼は顔を起こしてウイスキーを一口飲み、またふんぞりかえって目をつむった。

c) 「ああ、いい気持だ」

湯船に体をあずけてスタッグが声をもらした。片手にスコッチのソーダ割り、もう片手にはタバコを離さずにいる。あふれんばかりに湯をはり、蛇口を足の指でまわし湯加減を按配していた。

顔を起こしてスコッチを口に含むと、またへりに頭をもたせ目を閉じた。

* b) は人称代名詞「彼」の安易な使用が目立つ。「ふんぞりかえっ」たら溺れてしまう。

(9) 訓詁

[目的]

精読が翻訳の要であることを熟知させる

[指導ポイント]

英文を完全に理解したうえで、自分の訳文をつくる。

一字一句おろそかにせず、穿るように英文を読む。

実例：

The freshness of a bright May morning in this pleasant suburb of Paris had its effect on the little traveler.

この楽しいパリ郊外の5月の明るい朝のさわやかさが、小がらな旅人に影響した。

英文読解本の上記訳文を参考に、自分の訳文をつくる。

語釈：

freshness：新鮮さ＞すがすがしさ

bright：(日光などが) 明るい

pleasant：①気持ちのよい ②天気の良い、のうち①

had＞have：(結果など) を生み出す

effect：(結果を引き起こす) 効果；影響

on：動作の対象を示す「…に対し」

little：①(形・背丈・規模・数などが) 小さい ②若い、年少の ③可愛い ④(褒め、または貶め) つましい、チンケな

検討：

① little：

もともと多義で、文脈依拠の場合が多く、ここではどれと決めにくい。

cf. small 小柄な, 年少の short 背の低い

いろいろとれる場合は, 文脈, 字面 (ひらがな, かたかな・漢字のバランス, 長さ), 音の響き, 説得性などを勘案して訳語を決める.

② a bright May morning :

形容詞 + 名詞1 + 名詞2では, 形容詞は名詞2に掛かる.

名詞1は形容詞化し名詞2に掛かる.

例 : a local drama festival 地元の演劇祭

訳例 : この心地よいパリ郊外の5月の明るい朝のさわやかさが, その若い旅人の気持ちに影響を与えた」
さらに一步 :

① pleasant :

フランス語plaisantから転化.

please (他動詞 : 人を喜ばす) + -ant (接尾辞で「…性質の」)

② had > have :

haveの基本の意味は「持つ」だが, i) 心に持つ ii) 体に持つ iii) 周辺に持つ iv) 状況として持つ, に分かれる. ここはiv).

文型から見れば, i) 状態動詞として S (人・事) がO (結果) をV生じさせる ii) 動詞動詞として S (人) がO (行為・行動) をVする, 行う 例 : have a pity 同情する, のうち i).

③ 翻訳であれば, 次のような訳も可とされる :

心地よいパリ郊外, さわやかな5月の朝, 若い旅人の気分はよかった.

4, 翻訳訓練

[対象]

自分の訳文を読んでもらう読者を想定する. 子供なのか大人なのか. 一般の人なのかインテリなのか. 年齢はどうか, 等.

[成果目標]

日本語と対象言語 (概ね英語) は表裏一体である.

読むに堪える訳文の訓練と, それでも誤差が生じざるを得ないことを実体験する.

[方法]

学生には指名して予め訳文をつくってこさせる.

全文訳させ, 丁寧に添削し, それを基に授業で講評する.

添削は下訳に使える程度の直しとする.

文体までは踏み込まない.

原文 :

Pizarro took advantage of the fratricidal war and immediately went toward the mountains, to Cajamarca, where resided who he considered the most authoritative of the two opponents: Atahualpa. In late autumn of 1532, Pizarro

was at the gates of the city of Cajamarca, guarded by 30,000 warriors. Atahualpa, barricaded in the royal palace, remained impressive in front of danger and we still don't understand the attitude of the Inca sovereign, sometimes cautious and threatening, sometimes passive and resigned. On several occasions he could have destroyed the small army of the Spaniards on the march, trapping it in the narrow gorges of the mountains, on roads they didn't know. He waited for his enemies to come instead. As ambassador, Pizarro sent his brother Hernando (he played a leading role in the Conquest) , who was received at the court of Atahualpa, persuading him to meet Pizarro in the big square of the city.

The next day — 16 November 1532 — at sunset, the appearance of the Inca amazed and terrorized the Spaniards: Atahualpa, the son of the Sun, was wearing his most beautiful garments, with a vicuna cloak, a red-fringed crown interwoven with gold scales, and rare featherings. His gold pectoral gleamed in the sun and he was holding the symbol of power in his hands: an axe-shaped scepter with a very long staff. The cortege was preceded by a crowd of servants sweeping the ground in front of the litter with a canopy studded with silver leaves, on which the Inca was lying, surrounded by 300 archers, 1000 lancers and warriors armed with silver and copper clubs.

Pizarro marshalled his cavalry of just 37 unit and the opponents silently faced each other for a few minutes. The chroniclers of that time say that a Christian priest got near the Inca to give him a Bible, urging him to listen to the 'word of the only true God' and submit to the king of Castile and the pope of Rome. Atahualpa drew the book up to his ear and then hastily threw it to the ground, saying: "This thing doesn't speak!". For the Spaniards the contempt of the Bible was like an attack signal. Suddenly, Pizarro flung his troops on the indios in the square; he closed the narrow lanes to prevent their escape and killed the escort of the Inca, raising an awful bedlam among horses and soldiers, which ended up with a collective massacre, leaving the indios no chance to react. The slaughter, the lootings and the killing of unarmed people continued all night long, and the next day Atahualpa was chained and imprisoned in his palace.

When the news about the capture of Atahualpa spread all over the country, the empire got into a chaos and panic. The rival emperor Huascar told the Spaniards that he was ready to cover the conquistadores with gold and submit to the Spanish Crown, in exchange for the killing of his stepbrother. But his proposal arrived late, since he was killed by the supporters of Atahualpa in his palace at Cuzco. Thus Pizarro had no scruples and proposed a devilish pact: in exchange for a room (with a capacity of 88 cubic metres) full of gold and silver objects, he was ready to free Atahualpa. In a few days the indios raised the ransom, consisting of 5,720 kilos of gold and 11,000 kilos of silver. Obviously, Pizarro didn't want to save the Inca, who was condemned to the stake

After a summary trial, in which he was accused of idolatry. It was an ignominious and terrible end for an Inca who believed in the preservation of the body beyond life and whose people mummified the corpses, wrapping them in precious cloths and exposing them during the religious ceremonies. Maybe that's why Atahualpa — who know his fate very well — eventually accepted to be 'baptized', turning the sentence into 'death by garrotting'. After being strangled, his body was exposed in the square and then 'christianly' buried in the church of San Francisco at Cajamarca, hastily built by the missionaries who had accompanied the army. According to a Peruvian legend, the corpse was stolen during the night and transferred to Quito, where there should be the mysterious tomb of Atahualpa.

訳文（学生の訳を基に変えてある）添削例

誤訳 —
訂正

①ピサロは仲間割れによって起きた戦争を利用し、②すぐさま、③山々が連なり、④最も権威を持っているとピサロが思う、⑤二人の敵の一人であるアタワルパが住んでいるカハマルカに向けて出発した。1532年の秋の終わりごろ、ピサロは3万人の軍人によって警備されているカハマルカの都市の入り口にたどり着いた。

⑥宮殿にバリケードを築いたアタワルパは依然として、危機に陥っても感情を表わさないままであり、私たちはインカ君主の時折注意深く、脅迫的だが、時には消極的で諦めが早い態度を未だに理解できずにいる。⑦彼が、⑧ペイン人の小規模軍隊の進撃を減ぼすことが出来たであろう時にも、⑨山脈の狭い峡谷にある彼らの知らない道に追いついた。⑩（それよりも）彼は敵の到来を待っていたのだ。ピサロは、使者として弟のヘルナンド（彼は）この胸服で重要な役割を果たしていた）を送り、彼は、アタワルパの王宮に正式に招かれ、アタワルパをその都市の大きな四角い広場でピサロに会うように説得した。

・エルナンド

・インカ皇帝

・羽根飾り
・斧
・笏
・インカ皇帝
・天蓋

・の前後と
・護衛
・兵士が囲み、
・先頭の役者たちが
・先頭を飾る

・37騎の
・皇帝
・せむし、
・反響

⑪その次の日—1532年11月16日の日没—インカ族の出現は、スペイン人を驚かせ、恐怖に陥れた。太陽の息子であるアタワルパは、最も美しい服をまとい、ビクーニャマントと、金色のうろこが織り交ぜられている房飾りの付いた王冠、そして珍しい羽根の付いたリングを身に着けていた。胸部の金のモールは日の光に当たり、輝きを放ち、そして彼は笏をかたどった、長い柄のついた斧を手を持っていた。行列は、銀製の葉が散りばめられていてインカ族が横になっている傘の付いた担い籠、300人の弓の射手、1000人の槍騎兵、そして銀銅製こん棒で武装した兵士の前方の広範囲の土地を、使用人が率いていた。

⑫ピサロは37単位ある騎兵隊を掌握し、そして（相手は）黙って互いの顔を数分間正視した。その時の記録には、あるキリスト教の司祭がインカ族に近寄り、聖書を渡し、「神の真の言葉のみ」を聞き、カステイリカの王、そしてローマ教皇に服従するように迫ったということが記されている。アタワルパはその本を耳に引き寄せ、そして軽率にそれを地面に投げつけ言った「この物はしゃべらない」。スペイン人にとって、聖書を侮辱するということは攻撃の合図のようなものであった。ピサロは突然、四角い広場でインディアンに向かって軍隊を投入し、彼らの逃亡を妨げるために細い通りを閉鎖し、インカの護衛を殺し、馬や兵士の間で集団大量虐殺となったすさまじい大騒ぎを引き起こし、インディアンに弁明の余地を与えなかったのだ。この無防備な人々の虐殺と略奪は、夜の間じゅうそして次の日も続いた。アタワルパは宮殿の中に投獄された。

・フスカル
・エルナンド

・エルナンド
・フスカル

⑬アタワルパが拘束されたという情報が国中に広がると、帝国は大混乱となった。競争相手の皇帝であるヘルナンドは、継兄弟の殺害してくれれば、そのことと交換に、征服者たちを黄金で包み、スペインの権力に服従する準備が出来ているということをスペイン人に伝えた。しかし、その提案は遅すぎたがために、ヘルナンドはクスコの宮殿の中で、アタワルパの支持者の手によって殺害された。したがって、ピサロは良心の咎めもなく、非道の

悪訳 ...
訂正

・二人の皇帝のうち
・アンデス山中の
・兵士
・城門

・追いついた
・征
・送る
・に
・大広場

・カステリ

・大広場
・インディオ

・も
・振返り
・提案が届く
・より先に

協定を提案した。それは、(ある)部屋 (広さ 88m 立方) を金と銀の物で埋め尽くす代わりに、すぐにアタワルパを釈放するというものであった。数日間、インディアンは金 5720 キログラム、そして銀 11000 キログラムで成り立つ身代金として立てられていた。①言うまでもなく、ピサロは偶像礼拝の咎めで告発され、即決の裁判によって火あぶりの刑を宣告されたインカ国王を救う気はなかった。②それは、③屈辱的かつ、恐ろしい命が尽きても肉体維持をすることが出来ると信じていたインカ君主の終焉であり、彼の臣下たちはその死体をミイラにして、貴重な布で包み、宗教儀式の間さらけ出していた。おそらくそれが、自分の運命を熟知していたアタワルパが結果的に「洗礼をうけること」を受け入れ、またその刑罰が絞首刑になったという理由であったのだろう。絞首刑が執行されてから、彼の身体は(四角い)広場にさらけ出され、キリスト教徒らしくカハマルカのサンフランシスコ教会の敷地に埋められ、そしてそれは軍隊に同行していた宣教師によって急いで建設されたのである。ペルーの聖人伝によると、その死体は夜の間に盗まれ、謎に包まれたアタワルパの墓があるはずの場所であるキトに移されたそう。

・と強ひつけられ
・皇帝も
・殺さるゝ
・聖人伝
・はすく
・おん
・てあふ
・うしろ
・"キリスト教徒"
・らしく
・埋められん

モデル訳例

ピサロはこの兄弟同士の内乱に乗り、ただちに山岳地方へ向かいカハマルカを目指した。

カハマルカには戦っている二者のうち、より権威があるとピサロが考えた、アタワルパが住んでいた。1532年晩秋、ピサロは3万人の兵士に護衛されたカハマルカの都の門に着いた。アタワルパは防御態勢充分の宮殿内におり、危険が迫っていても平然としていた。このインカ皇帝の態度は時に用意周到かつ威嚇的であり、時に受動的かつ忍従的で、いまだに不可解である。アタワルパには、スペイン人の小さな部隊を、進軍してくる途中で狭い山あいの知らない道に追い込んで壊滅させるチャンスが何度かあったはずである。しかしそれをせず、スペイン人たちが来るのを待った。ピサロは使節として弟エルナンド(征服に指導的役割を果たした人物である)を送った。アタワルパの宮廷で応対されたエルナンドは、都の大広場でピサロに会うようアタワルパを説得した。

翌日ー1532年11月16日一日没時に現れたインカ皇帝の姿はスペイン人らを驚かせ恐れさせた。太陽の子アタワルパは、ビクーニャのマント、黄金の鱗を織り込み赤いフリンジの付いた冠、珍しい羽根飾りで盛装していた。金の胸飾りは太陽の光を受けて輝き、手には権力のシンボル、柄がきわめて長い斧型の笏が握られていた。行列はまず大勢の従者が地を堂々と進み、その後を銀箔で飾られた天蓋の付いた輿がやって来た。輿にはアタワルパが乗っており、前後を300人の弓兵、1000人の槍兵、銀や銅の棍棒を携えた兵士たちが固めていた。

ピサロが自分のたった37騎の騎兵隊を整列させると、両者はしばし無言で向き合った。当時の記録によれば、キリスト教聖職者が皇帝アタワルパに近付き、一冊の聖書を渡して、「唯一真なる神の御言葉」を聞きカステーリヤ王とローマ教皇に服従するよう迫った。アタワルパは聖書を耳に当て、それから苛立たしげに地面に投げ捨てて言った。「何も申しぬではないか！」スペイン人にはこの聖書への冒涇が攻撃の合図のようなものだった。突然、ピサロは軍隊に広場にいるインディオたちを攻撃させた。狭い道を封鎖して敵の逃げ道を塞ぎ、皇帝の護衛を殺し、馬と兵士たちをけしかけ、恐ろしい狂乱の事態はインディオの抵抗を許さず集団虐殺に終わった。殺戮、略奪、非武装の人々の殺害は一晩中続き、翌日アタワルパは鎖につながれ宮殿に監禁された。

アタワルパ捕囚の知らせが伝わると、帝国中が混沌とパニックに陥った。いがみあうもう一方の皇帝

ワスカルはスペイン人に、アタワルパを処刑してくれれば自分はスペイン人に金を与えスペイン王に服従するつもりがあると申し出た。しかしその伝言がピサロらに届く前にワスカルはアタワルパ側の者にクスコの宮殿で殺されてしまった。そうしてピサロはもはや何のためらいもなく非道な要求を出した。部屋（容積88立方メートル）一杯の金銀製品と引き換えにアタワルパを解放すると言い渡したのだ。数日のうちにインディオたちは身代金を用意した。5720キロの金と11000キロの銀である。もちろんピサロはアタワルパを救う気などなく、偶像崇拜のかどで簡易裁判の後に火刑を宣告していた。死後も体を保存する信仰をもち、遺体をミイラにさせて高級な衣に包み宗教的儀式の際に公開する習慣をもっていたインカの皇族にとって、火あぶりなどというのは屈辱的で恐ろしい死に方であった。自分の運命をよく知っていたアタワルパが結局「洗礼」を受け入れ、宣告を「絞首刑」に変えさせたのは、そのためだったかもしれない。絞首刑に処せられた後、アタワルパの遺体は広場でさらされ、そして「キリスト教徒らしく」カハマルカのサンフランシスコ教会に埋葬された。この教会はスペイン軍に同行した宣教師らによって即席に建てられたものであった。ペルーの伝説によれば、遺体は夜のうちに盗み出され、キートに移されたので、キートにはアタワルパの墓があるはずだということになっている。

5、ケーススタディ

こうして学んでゆく成果はやがてどう結実するか。翻訳が商品となってゆく実例を上げて奮起させる。以下は北川知子による現場ドキュメントである。

【訳書を出すまで】

某月某日：リーディングの依頼あり。締め切りは3週間後。

※※仕事を受けるときは、自分で企画を持ち込むのか、それとも出版社からの依頼かと聞かれることがよくある。他の翻訳者もおそらくそうだと思うが、私の場合もこれまでの訳書のほとんどが依頼によるもので、そのうちの一部は、あらかじめ「リーディング」と呼ばれている作業を経ている。

「リーディング」は、出版社が邦訳出版を決定するための判断材料となるレジюмеを作成する作業で、与えられる期間は2週間～1か月、章ごとの内容の要約、所感、参考になる情報（類書の有無、それらに対する評価など）をA4で3～5ページのレジюмеにまとめる。

リーディングの対象作品については、原書の刊行後すでに数年以上経っているものもあれば、刊行前の草稿をPDFで受け取って読むこともある。草稿すらまだ完成しておらず、概要を数枚にまとめたものを預かったこともある。しかしおおむね、原書が刊行される半年以上前のものが多い。この日依頼を受けた作品も、原書の刊行予定は約1年後だった。

海外新聞の書評などを読み、この本を翻訳してみたいと思うときもあるが、その時点では国内の出版社はとうに検討を終えているだろう。訳者が新刊書を企画として出版社に持ち込むのはなかなかむずかしいと感じる。

逆に過去に邦訳が出ていても、すでに絶版になっているようなものがある。数年前のことだが、別の本を訳している過程である本のことを知った。邦訳が刊行されたのは1987年で、現在では古書を入手するか図書館で借りるしかない。内容的にはもちろん古いが、今後もその分野では読み継がれてほしい

ものであるため、もう一度出せないだろうかと編集者に相談し、出版が実現したことがある。

某月某日：リーディングのレジュメ提出。

※※リーディングをすると、邦訳刊行が決まったときには翻訳を任される場合が多い。自分の仕事につながるのだから、できるだけ高い評価をつけたくるのが人情だ。しかし、滑り出しはおもしろくても、途中から同じ主張が繰り返されている場合もあれば、あまりにもアメリカ中心の主張で邦訳には適さないと感じるものも多い。

一語一句、丁寧に読み解き、日本語に置き換える作業とは異なり、大意をつかみ、一つの章の要点を数行にまとめるリーディングは、もっとも英文読解力を必要とするものだろう。たいていの場合、リーディング依頼時には、他の本の翻訳作業を抱えており、それと並行して読んでいくことになるのだからなおさらだ。

某月某日：レジュメ提出から1か月半ほどして出版社から連絡あり。版權がとれなかったとのこと。

※※これまでの経験では、リーディングをして、ぜひ邦訳が出てほしいと思ったのは、依頼されたうちの3分の1程度、実際に邦訳出版が決まった例はさらに少ない。逆に、私の評価が低くても、邦訳が出るようになったものもある。今回は、残念ながら他社から出版されることになった。

某月某日：邦訳の依頼あり。約380ページ、提示された締め切りまで約4か月半。

※※ノンフィクション翻訳の場合、一冊300ページ前後の原書を3～5か月の間に仕上げるよう依頼される場合が多い。

スケジュールは本によってさまざまで、過去の経験では、依頼から一年後に着手、途中で担当編集者の交替などもあり、双方の都合で延び延びになった挙句、3年近くかかってようやく目の目を見たという一冊もある。

依頼を受けると、それから2週間～1か月を目途に冒頭部分（「はじめに」や「第1章」）を訳し、提出する場合が多い。どのような訳文にするかを考えながら、実際にどれくらいの速さで、どれだけの分量を訳せるかを測り、おおまかな作業スケジュールを立てる。

依頼前に「リーディング」をした本であれば内容はわかっているので、すぐに訳し始めるが、そうでない場合は最初に全体を通読する。冒頭部分には、その本が書かれた意図、全体の構成、概要などが述べられているので、訳出作業と並行して読むべき資料の目星をつけ、集めたりもする。

仮訳提出後は、編集者からのフィードバックを踏まえ、その後の作業を進める。ただし、この段階ではそれほど細かい指摘を受けることはない。

このあとは、原文を読む→日本語に訳す→見直すという作業を数か月間ひたすら繰り返す。おおざっぱなノルマを決め、こなしていく。ノンフィクションに限らないだろうけれど、事実関係の確認、引用箇所の確認などあれこれ調べる作業も並行して行う。

原書の中で映画に言及されることも多々ある。その映画を見たことがない場合も多く、仮に見ていても、シーンや台詞、そのニュアンスの逐一を覚えているわけではないため、もう一度見直し、該当箇所を確認する。

ノンフィクションでは、他の本や論文からの引用がめずらしくない。引用文献の邦訳があれば、該当箇所を確認する。ただし、邦訳書は必ずしも原書を逐語訳しているわけではないので、該当箇所が省略されていてがっかりすることもある。

キーワードの訳語について迷う場合などには、途中で編集者と相談する。そのほかにも、たとえば著者がインタビューした中国人名の表記がわからず、編集者から著者に確認をとってもらったこともある。

某月某日：初校ゲラを受け取る。

※※訳出作業が終わると、出版社での確認、校閲等を経てゲラが出来上がり、初校・再校と二度の校正作業を行う。初校では、校正者の赤字や編集者の指摘部分を確認し、訳文を修正する。

初校、再校のゲラを読み、誤訳や勘違いに気づくこともある。最初に原稿を提出する前に、あれほど何度も読み直したのに、とわが身が腹立たしくなる瞬間だ。

翻訳依頼を受けた時点では、原書がまだ刊行されていない場合が多く、訳出作業は最終稿のPDFをもとに行う。その後刊行された原書では最終稿のPDFに修正が入っていることもあり、再度照合しながら修正箇所を訳文に反映させる。

「原注」や「参考文献」についても、必要な箇所については訳出作業を行う。引用文献、参考文献として挙げられているものについては、邦訳があればその書誌事項を調べて記載する。URLが記載されている場合には、その箇所を確認する。

某月某日：再校ゲラ送付。ようやくすべて終了。あとは刊行を待つのみ。

※※初校・再校の作業と並行して、「訳者あとがき」を作成することもある。

一連の作業が終わると、書店に本が並ぶ一週間ほど前に見本が送られてくる。それまでの数か月以上に及ぶ日々を振り返り、ひととき感慨にふける。

刊行後には、SNSなどで感想が投稿されたり、全国紙や週刊誌に書評が掲載されたりして話題になり、重版がかかることもある。しかししたいいの場合、波はすぐに引く。訳書が出るたび、本が売れない時代であることを再認識する。

「業界に入るまで」

書籍の翻訳に携わっている人の場合、きっかけ、働き方はさまざまであり、逆に言えば、入口はたくさんあり、どこから入っても仕事につながるとも言える。

周囲を見てみると、

- 大学を卒業後、翻訳会社に就職、コーディネーターなどの仕事をしたのち独立。
- 一般企業で社内翻訳を担当し、その後退社、実務翻訳に従事したのち、出版分野へ。
- 実務翻訳と出版翻訳の両方をこなす。
- 一般企業で働きながら、一年に1~2冊のペースで訳書を出し続けている。
- 定年退職後に翻訳を学び、出版社に企画を持ち込みデビュー。

というような人たちがいる。

出版翻訳に携わるためには、出版社から依頼を受けさえすればよく、そのためには、翻訳学校で学ぶ、オーディションやトライアル、コンクールなどで賞をとる、出版社に企画を持ち込む、出版翻訳のエージェント（仲介会社）を通じて仕事を得るなどの方法がある。

○翻訳学校で学ぶ

現在では、出版翻訳に従事している人のほとんどが、翻訳学校などで学んだ経験を持つようだ。いわゆる翻訳学校とはまったく無縁、という翻訳者は少ないように感じる。ちなみに、雑誌『通訳翻訳ジャーナル』2017年秋号の「全国通訳・翻訳スクールコースガイド」によれば、翻訳コースを持つ学校は64校（英語以外の言語も含む）、通訳・翻訳が学べる主な大学・大学院は33校ある。

翻訳学校で学ぶ目的は、力をつけるのと同時に、実力を認められ、講師から出版社に推薦してもらうこと、コネクションを得ることだろう。英文を読む力、的確な日本語にする力は本来独学でも得られるだろうが、どの仕事もそうであるように、翻訳もまた、人とのつながりがきっかけとなる場合が多い。

○オーディションやトライアル、コンクールに応募する。

オーディションでは、原書の一部が課題として出され、優秀者に翻訳が依頼される。私も一時期、定期的に応募していた。あらかじめ締め切りが決まっているため、一定量の英文を締め切りまでに訳す訓練になった。提出した訳文には必ず評価（ランク付け）がされるため、自身の訳文に対する客観的評価も得られる。ただし、出版社との直接的なつながりができるわけではない。

オーディションを通して「下訳」の仕事をしたこともある。「下訳」というのは「草稿」を作成するようなもので、下訳者の作業が終わったあとは、訳者がその草稿に手を入れ完成させる。「下訳」もまた、本格的に翻訳者として仕事をするきっかけにはなるだろう。手直しする必要があるほど完成度の高いものを提出できれば、いずれ下訳ではなく翻訳を任される可能性もある。また自身の訳稿と完成されたものとを比較することで、自分に足りないところや弱点を知ることできる。

○企画を出版社に持ち込む。

私自身は、面識のない出版社に企画を持ち込んだことはないが、編集者の話を聞く限り、そういった飛び込みでの持ち込みもめずらしくないようだ。どの出版社も「売れる」本を求めているのは事実で、いい企画であれば訳書として出版できる可能性もあるだろう。

○出版翻訳のエージェント（仲介会社）を通じて仕事を得る。

出版社から直で仕事をもらうのに比べると、一冊当たりの報酬は少ないものの、実績を積めるという利点はある。最初はリーディングや下訳の仕事を受け、その後、本格的に書籍の翻訳の仕事を受け負うことになる。編集者と直接のつながりは持てないとしても、新しく参入する場合の足掛かりとしては一つの選択肢になる。

○その他

翻訳書の出版点数の増加に比較して、部数は伸びていないというのは、ずいぶん前から言われていることだ。本の価格が2,000円、初版部数が5,000部、印税率が6%であれば、収入を得る必要がそもそもない場合は別として、生活を成り立たせるための手段を確保しておく必要がある。そうなると翻訳作業に割ける総時間が短くなるため、一年間にこなせる冊数も限られるだろう。

「一つだけいえることは、すでに五年、十年、二十年のキャリアのある人に比べると、これから翻訳専門を志す人は、たとえ努力してもそう順調に収入を増やしつづけるのは無理だろうということだ。チャンスも多くなったが、競争もはげしくなっている。よほどの力がない限り、過当競争に打ち勝ち、生き残っていくのは難しい」。小鷹信光『翻訳という仕事』（ちくま文庫）の言葉である。この本が出版されたのは20年近く前の二〇〇一年だが、いまでもこの言葉のとおりであることは言うまでもない。

実務翻訳や記事翻訳、ものを書く仕事など翻訳につながる仕事であれ、まったく別の種類の仕事であれ、翻訳と両立させるためには「よほどの力」、すなわち英文を正しく読む力、しかも超高速で正確に理解できる力が必須だと思う。入力速度を高める、調べものの速度をあげる、生活の中でのムダな時間を省くなどの工夫はできるだろうけれど、やはり一番は、英文を読む→理解する→日本語に置き換える、という作業をどれだけ短時間で正確にできるかにかかっているのではないだろうか。

コストパフォーマンスを考えれば、翻訳する分野を限定し、得意な分野で実績を積んでいくこともできる。新たに訳す本の内容が過去に訳した本に近ければ、まったく別のジャンルに取り組むよりは効率的だ。とはいえ出版翻訳分野に新規参入した場合には、仕事を継続して得られるかどうかが先決であり、「来るものは拒まず」で目の前の仕事に全力投球せざるを得ない。このあたりのバランスはむずかしく、どこまで仕事を「選ぶ」かは悩ましい。

言うまでもなく、一冊の本の翻訳者は一人しかいない。同じ邦訳書が複数の出版社から出ることもない。その意味では責任は重大であり、翻訳者自身にとっても一冊の重みは大きく、やり直しはきかない。一冊の訳書が出るたび、そのことを痛感している。

6. 問題点

いくら授業で講師が奮闘しても、わずか一コマ、二コマで翻訳ができるようになるはずもない。せめて、翻訳の授業は「英文和訳」を脱するものでありたい。学生のやる気を引出し、英語力をつけ、願わくは将来翻訳関連の職種に携わりたい、培った翻訳手法をもって社会人になってビジネスの現場で英語を正しく読み取り生かしたい、と思わせるような授業が望ましい。

だがここまで述べてきたようなことを指導できる教員は、そういるものでない。

問題となるのが、

(1) 教員の養成

望ましい教員像：

- 翻訳現場での経験があること
- 英文を正確に読み解けること

・翻訳訓練を指導できること

こんな大学教員はまずいないだろう。現場のベテランを招くのが一番だが、大学教員の最低条件は修士卒との傾向が著しい現況では難しだろう。せめて大学院で翻訳を教えられる教員を養成してほしい。でないと今と同じ生半可な翻訳知識の教員が的を知らずに学生を指導する日々が続いてしまうだろう。

(2) カリキュラムの策定

翻訳と言えど英語です。英語を学ばずして何を学ぶのですか。論者は常々そう言っている。

翻訳の力の90%は徹底した英文精読によって得られる。

できれば翻訳コースを学科内につくって、4年間の一貫教育で鍛え上げたい。

一年二コマずつ×4年間＝8コマ。

一年：「英文解釈教室」「精選エッセイ100題」

二年：「ノンフィクション25題」「フィクション12題」

三年：「戯曲・映像」「ITなど産業分野」

四年：「翻訳インターン」「卒業製作」

英語が正しく読める、だからやろうと思えば翻訳もできる。ここまでは確実に指導できる。

残りの10%が「商品として通用する翻訳の技術」だ。これは経験で慣れてゆく部分と、本人の天性の部分に分かれる。大学4年間だけでなく、社会人になってからもじっくり自分を熟成させてゆくしかない。

(3) 実践の場

翻訳は現場学である。いかに翻訳理論を学んだところで、畳の上の水泳と同じく、役には立たない。四年度には是非、学校から出て翻訳会社、出版社、編集プロダクション、映像製作会社など、日々の切羽詰まった現場での翻訳実務をこなす場を与えてほしい。翻訳者手配、校正、打ち直し、レイアウト、チェック、クレーム処理など綺麗ごとない翻訳全般を知ることが、自信へとつながるだろう。

7. 結び

[翻訳教育を英語教育の根幹に]

文法力、論理力、教養力、文章力が4位一体として学べるのが翻訳である。

翻訳者になることを目指さずとも、翻訳の思考過程で得た力は必ず学生が社会に出てから生きることは間違いない。

翻訳教育を英語教育の根幹に据えようという教員、学科、学部、学校が出てくることを祈りたい。

参考図書

「翻訳家になる方法」青弓社
「英文翻訳テクニック」ちくま新書
「翻訳家で成功する」工作舎
「翻訳家になろう」青弓社
「決定版 翻訳力錬成テキストブック」日外アソシエーツ
いずれも柴田耕太郎著



柴田 耕太郎 (Shibata Kotaro)

所属：獨協大学外国語学部交流文化学科非常勤講師

Email：shibata@id-corp.co.jp

北川 知子 (Kitagawa Tomoko)

(翻訳者)

Email：ktgw1389@gmail.com